作業療法学生を対象とした
臨床思考過程および臨床技能のための授業実践

Teaching Practices for Clinical Thinking Process and Clinical Skills for Occupational Therapy Students

吉村友希*,**　戸田真志**　久保田真一郎**　鈴木克明***
Yuki Yoshimura *,**　Masashi Toda**　Shinichiro Kubota**　Katsuaki Suzuki ***

*熊本保健科学大学　**熊本大学　***武蔵野大学
* Kumamoto Health Science University
** Kumamoto University　*** Musashino University

＜あらまし＞今回は，作業療法学生を対象に，臨床思考過程，臨床技能の修得を目的とした授業を実践した．授業の目標は，事例の状態を国際生活機能分類（ICF）を用い，事例の全体像を把握することができる，事例に対して問題の焦点化を行い，治療目標を立案することができる，事例の特徴を踏まえた評価を実践することができるであった．ルーブリック評価の結果，授業は，一定の臨床思考過程および臨床技能を身に付けることを可能にしたと考えられた．
＜キーワード＞　授業実践，臨床思考過程，臨床技能

1. はじめに

作業療法教育では，作業療法士としての基本的態度，臨床思考過程，臨床技能の修得が求められる．今回は，臨床思考過程，臨床技能の修得を目的とした授業を課題中心型インストラクションの知見を活かして設計，実践し，その効果を検証した．

2. 方法

2. 1. 対象授業

対象とした授業は，作業療法士養成課程の学部 2 年次後期に開講されている専門科目 2 科目であった．2 科目は，精神障害領域作業療法の代表的な 2 疾患を取り扱う「基礎精神機能作業療法学，以下基礎とする」，精神障害領域作業療法で関わることの多い 3 疾患を取り扱う「応用精神機能作業療法学，以下応用とする」であった．授業は，それぞれ 15 回で，基礎 15 回終了後，応用が開始された．授業は，2022 年度に実施され，受講者は，37 名であった．

2. 2. 授業の目的

授業の目的は，基礎，応用ともに，精神障害領域作業療法評価で必要となる臨床思考過程と臨床技能を身に付けることであった．授業の目標は，（1）事例の状態を国際生活機能分類（ICF）を用いて分類し，全体像を把握することができる，（2）事例に対して問題の焦点化を行い，治療目標を立案することができる，（3）事例の特徴を踏まえた評価を実践することができるであった．

2. 3. 授業内容

授業目標（1）（2）は，授業の目的である臨床思考過程を身に付けるために掲げられた．臨床思考過程の到達度をはかるためには，事例報告書を用いた．授業目標（3）は，授業の目的である臨床技能を身に付けるために掲げられた．臨床技能の到達度をはかるためには，実技試験を用いた．授業内容を表 1 に示す．

2. 4. 成績評価

成績評価には，基礎 15 回目，応用 15 回目の最終事例報告書と実技試験を用いた．成績評価には，それぞれのルーブリックを用いた．

3. 結果と考察

基礎 15 回目，応用 15 回目における最終事例報告書ルーブリック 10 項目および実技試験ルーブリック 8 項目に対して，対応のある t 検定を行った．その結果，最終事例報告書ルーブリック 10 項目のうち 7 項目において，また，実技試験ルーブリック 8 項目のうち 2 項目において，基礎 15 回目より応用 15 回目の方が高い有意差が生じていた（表 2）．このことから，対象授業は，一定の臨床思考過程および臨床技能を身に付けることを可能にしたと考えられる．今後は，基礎と

応用の比較で有意差が生じていない項目を中心に改善を行いたい.

謝辞

本研究は, JSPS 科研費 JP22K02903 の助成を受けたものである.

表 1　基礎精神機能作業療法学および応用精神機能作業療法学の授業内容

科目名	基礎		応用	
回	疾患	内容	疾患	内容
1	統合失調症	全体像把握・治療目標立案	アルコール依存症	全体像把握・治療目標立案
2				
3				事例報告書作成
4				評価観察・実践
5		事例報告書作成		事例報告書作成
6		評価観察	パーソナリティ障害	全体像把握・治療目標立案
7		評価実践		
8		事例報告書作成		事例報告書作成
9	気分障害	全体像把握・治療目標立案		評価観察・実践
10				事例報告書作成
11		事例報告書作成	神経症性障害	全体像把握・治療目標立案
12		評価観察		事例報告書作成
13		評価実践		評価観察・実践
14		事例報告書作成		事例報告書作成
15	2疾患のうちいずれか	最終事例報告書	3疾患のうちいずれか	最終事例報告書
		実技試験		実技試験

表 2　ルーブリック得点の基礎 15 回目と応用 15 回目の比較

(n=37)	基礎 15回目 平均 (SD)	応用 15回目 平均 (SD)	t値
事例報告書			
1　記録から対象者に関する情報を収集できる	2.35 (0.50)	2.46 (0.49)	-0.88
2　評価結果をICFに分類できる	2.39 (0.44)	2.46 (0.45)	-0.65
3　評価結果の肯定的側面・否定的側面について説明できる	2.22 (0.88)	2.64 (0.61)	-2.56*
4　評価結果の相互（因果）関係をICFを用いて説明することができ	1.65 (0.91)	2.15 (0.83)	-2.96**
5　対応すべき課題を焦点化できる	1.64 (0.80)	1.92 (0.76)	-1.88†
6　対象者の予後（将来像）について説明することができる	1.15 (0.78)	1.95 (0.83)	-5.38***
7　対応すべき生活課題を列挙することができる	1.47 (1.14)	2.32 (1.11)	-3.64***
8　対応すべき生活課題に優先順位をつけることができる	1.34 (1.24)	2.24 (1.13)	-3.76***
9　作業療法の長期目標を説明できている	1.60 (0.70)	1.93 (0.73)	-2.63*
10　作業療法の短期目標を説明できる	1.74 (0.67)	2.11 (0.72)	-2.50*
実技試験			
1　状況に相応しい服装や身なりを整えることができる	1.91 (0.26)	1.62 (0.65)	2.49*
2　状況に相応しい挨拶や自己紹介ができる	1.82 (0.36)	1.93 (0.24)	-1.846†
3　患者に対する礼節のある言葉遣いや態度をとることができる	1.81 (0.27)	1.76 (0.30)	0.94
4　患者に評価手段について説明し、同意を得ることができる	1.82 (0.29)	1.84 (0.29)	-1.85
5　選択した評価手段を適切に使用することができる	1.66 (0.37)	1.81 (0.27)	-2.14*
6　患者の状態に留意し、安全に遂行することができる	1.66 (0.66)	1.88 (0.27)	-1.78†
7　指導者に対する礼節のある言葉遣いや態度をとることができる	1.99 (0.08)	1.92 (0.25)	1.71†
8　指導者への報告をすることができる	1.58 (0.40)	1.81 (0.30)	-2.68*

†p<0.1 **p<0.01 ***p<0.001